

屋久島で出会える動物

屋久島は、1993（平成5）年に日本初の世界自然遺産に登録され、今年12月に登録30周年を迎えます。企画展「蔵出し 屋久島」では、遺産として評価された2点（特異な生態系、優れた自然景観）を本館収蔵の標本を交えて振り返るとともに、遺産の価値を守る取組を紹介する予定です。今回の自然だよりでは、次回の企画展で披露する動物面の記事を少しだけ“蔵出し”しようと思います。

ニホンジカの亜種 ヤクシカ



ヤクシカは、屋久島と口永良部島に生息するニホンジカの亜種の1つです。日本国内には、ニホンジカの亜種が7種いますが、その中で最もからだ小さく、また、からだの大きさに割に短足であるという特徴があります。かつては、全国のシカと同様に個体数の増加により、森林荒廃や農業被害などの問題を引き起こしていました。しかし、北海道大学の揚妻教授らの報告によると、理由は不明ですが、2014年を境に個体数は減少傾向にあるそうです。

ニホンザルの亜種 ヤクシマザル



屋久島にのみ生息するニホンザルの亜種です。本土

のニホンザルに比べ少し小型で、体毛は密度が低く太くて長いのが特徴です。数万年前の氷河期に九州本土から渡ってきて、雨が多い屋久島の環境に適応した姿になったと考えられています。西部林道では、好物の果物を採るようすなどを観察できます。

火砕流を生き延びた ヤクシマタゴガエル



(写真提供：小西 祐伸)

屋久島の山林を歩くと見ることができカエルで屋久島の固有種です。全国に広く分布するタゴガエルに比べ、腹面の暗色の斑紋が多く、水かきがより発達するなどの特徴があります。屋久島の生物は、巨大噴火による火砕流に度々襲われたことがわかっていますが、その度に生き残り、200万年以上前から屋久島に存在していたと考えられています。

亜高山帯の野鳥 コマドリ



(写真提供：福留 千穂)

馬がいなくなかように鳴くので駒鳥（駒＝馬）と名付けられました。初夏、1,000m以上の高山で鳴き声を聴くことができます。屋久島のコマドリは、亜種タネコマドリとされてきましたが、遺伝研究から本土に分布するコマドリと同一種と考えられるようになってきています。